

## いじめや不登校等に対応できる校内体制の整備

千葉県習志野市立大久保東小学校 上原 宏

## I 現状と課題

## 1 現状認識

本校は、習志野市の中心に位置し、昭和38年に習志野市立大久保小学校より分離独立し、本年度で57年目を迎える。

大久保地区に新しく建設されたマンションや公務員住宅等の集合住宅から通学する児童が大部分を占める。明るく素直な児童が多い。保護者は、学校に対して非常に協力的で、PTA活動や学校行事への参加も積極的である。現在、普通学級17学級、自閉症・情緒障害特別支援学級3学級、LD/ADHA通級指導教室1教室で児童数461名の中規模校である。

本校の過去3年間のいじめ認知件数及び不登校児童数の現状は、以下のとおりである。

いじめ認知件数(年間)	不登校児童数(30日以上)
H28年度 94件	2名(内50日以上欠席0名)
H29年度 50件	2名(内50日以上欠席2名)
H30年度 104件	3名(内50日以上欠席2名)

## 2 課題分析・アプローチの視点

いじめの認知件数については、年度によって認知件数に差があるものの、各年度とも重大事態はない。いじめの解消率は年度末には、ほぼ100%である。本校の不登校児童発生率は、国・県・市平均より低いが、不登校児童数及び欠席日数の増加がみられる。また、登校はできているが、教室に入れない児童もいる。そこで、どの児童にとっても居場所があり、存在感を感じ、「心の安心」をもてるような学校づくりを目指し、不登校児童の未然防止、早期発見、早期対応を学校重点目標の一つとして掲げた。具現化の視点として、本校の特徴である通級指導教室や特別支援学級との連携などを含めた不登校に対応できる校内体制の整備に取り組むこととした。

## II 研究の概要

## 1 未然防止の取組

## (1) 実態把握の取組

- ①全校の出欠状況を養護教諭が把握し管理職に報告する。
- ②欠席理由が不明な児童がいる場合は、必ず担任、養護教諭、教務主任、教頭のいずれかが業間時までに連絡を取る。業間時までに連絡が取れない場合は、家庭訪問を行う。
- ③欠席児童には必ず担任から放課後等に電話連絡をする。3日以上欠席した場合は、家庭訪問を行う。
- ④月末の長欠対策簿を活用し、全校児童の欠席状況を把握する。欠席日数15日以上の児童がいた場合には、要注意児童として職員会議や校内委員会で共通理解を図る。
- ⑤不定愁訴による保健室来室児童の情報共有を図る。

## (2) 「心の安心」のもてる取組

- ①教育相談活動の充実
- ②縦割り活動の充実
- ③ピアサポートやグループエンカウンター等の実施

## 2 早期発見・早期対応のための体制づくりの取組

## (1) 校内委員会の活性化

## (2) 普通学級と通級指導教室との連携

- ①早期面談と日常的な母親相談
- ②市の発達センター担当者とのケース会議の実施
- ③校内委員会でケース会議の報告・対応の具体化
- ④市の教育支援委員会を経て、本校「自閉症・情緒障害通級指導教室」に入級し、指導開始

## (3) 関係機関との連携

- ①市の発達センターとの連携
- ②市の発達センターと医療機関との連携
- ③地域ネットワークとの連携
- ④市総合教育センター相談機関との連携

## (4) 「不登校の早期発見・早期対応のための校内体制」の構築。

## III 成果と課題

## 1 成果

・「不登校の早期発見・早期対応のための校内体制」をもとに通級指導担当者と担任等が連携したことで、不登校状況の改善が見られた。また、関係機関との連携を図れたことで、様々な立場から児童・保護者の困り感に寄り添うことができた。

## 2 課題

・ケース会議での対応についての各機関の進捗状況の確認が十分にとれなかった。

・今後不登校児童が増えてきた場合、通級指導担当者が通常の指導と並行して不登校児童の対応を行っていくことの困難さが予想される。

## IV 提言

## 1 「調整役」としての役割

不登校の要因・背景は実にさまざまである。児童・保護者の実態、取り巻く環境等からどのような手立てが必要か、関係機関との連携は、どの機関と行い、どのような手順で実施していくか等多面的多角的に状況を捉え、校内、校外の体制をいかに生かし連携していくか等「調整役」としてのリーダーシップが必要である。また、課題の解決にあたっては、様々な立場からの意見を聞きながら話し合いによる合意形成をすることが望ましい。しかし、時には、合意形成をトップダウンで行うことを忘れてはならない。

## 2 目標の設定・共有化

不登校の校内体制を整備し、校内外との連携を図れても、目標を設定し、共有化しなければならない。最終目標の設定は大切である。しかし、最終目標だけだと目標達成までに時間がかかり、振り返りが難しく、対応が停滞していく。そのため、1か月程度先の短期目標と学期を見通した中期目標の設定が重要である。段階的に振り返りを行うことで取組等の修正を行っていく。時には、対応にスピードが求められることを忘れてはならない。